

今月のテーマ

「重症ぜんそく」に有効な分子標的治療薬

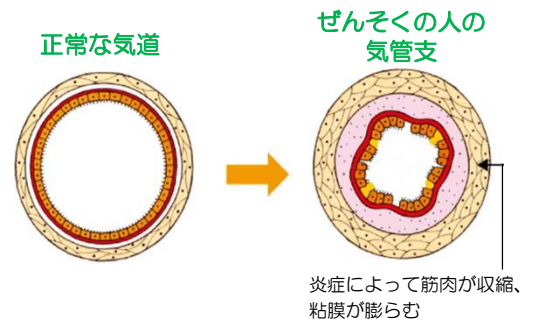
～ぜんそくの原因物質を無力化～

◆「ぜんそく」は秋に増える

ぜんそくとは、肺の内部にある気管支の内壁に炎症が起こり、空気の通り道が狭くなる病気です。ヒューヒュー、ゼーゼーと呼吸音がして息苦しくなる「気管支ぜんそく」がよく知られています。その前段階を「咳ぜんそく」といい、あるきっかけで激しい咳が出て、一度出ると止まらなくなるのが特徴です。

日頃意識することは少ないですが、呼吸するたびに外界と接する

「肺」は、常に危険にさらされています。特に、秋は夏にくらべて気温や気圧の変化が激しいため、長引く咳に苦しむ人が多く、その多くは咳ぜんそく・気管支ぜんそくだといわれています。また、高温多湿な夏に増殖したダニが秋に死骸となり、吸い込まれやすくなることも一因だといわれています。



◆ぜんそく治療の第一選択薬：吸入ステロイド薬

ぜんそくの治療は、気管支を広げる薬と炎症を抑えるステロイド薬を吸入する対症療法が基本となります。重症度に合わせて薬を決めていき、発作が多くなるにつれてステロイドの量を増やし、改善すれば減らします。吸入ステロイド薬は子供や妊婦も使用できる安全性の高い薬剤で、吸入後にうがいを行えばこれといった副作用は出現しませんし、効果も高いです。個人差や症状にもよりますが、8割以上の方が吸入ステロイド薬で症状は緩和します。



吸入ステロイドでは効果が不十分な場合は、経口ステロイド薬の併用が検討されます。効果は高いですがその副作用も多くなるため、経口ステロイド薬は様々な薬を調整しても無理なときの最後の手段とされています。

◆重症ぜんそくの新しい治療薬：分子標的薬

ところが、上記の薬で症状をコントロールできない重症患者もいます。全国で約800万人と推計されるぜんそく患者のうち、5～10%が重症とみられています。そうした重症患者の治療薬として分子標的薬が登場しました。炎症に関わるリンパ球や好酸球などの免疫細胞の動きを抑える薬で、皮下注射で投与します。効果が強いわりに副作用は低く、元々はリウマチ・膠原病やがんなどの難治病に対して開発されたものです。現在は健康保険の適応にもなりましたが、薬価が非常に高価なのが難点です。

《現在重症ぜんそくの治療で利用できる分子標的薬》

ゾレア…ヒト化抗ヒトIgE（免疫グロブリンE）モノクローナル抗体製剤。

ぜんそく発症の原因となるIgEとくっつき、その動きをブロックする薬。

ヌーカラ…IL-5（インターロイキン5）のヒト化モノクローナル抗体。

IL-5を阻害することで、好酸球を減少させぜんそく発作を抑制する薬。

ゾレアは2009年に重症ぜんそくの治療薬として承認され、2015年のぜんそく治療ガイドラインにも登場しています。ヌーカラは、日本では2016年に重症ぜんそくの治療薬として承認された新しい薬です。経口ステロイド薬の副作用で苦しんでいた人にとっては、分子標的治療薬は救世主とも言える薬です。高額療養費制度や医療費控除の対象にもなりますが、大きな病院でなければ実施できないことが多いです。

異物混入を起こす虫

◆カップ焼きそばのゴキブリ

皆さんは購入した食品に虫が混入していた場合、どうしますか？ショックを受けてすぐに捨てる、腹を立ててメーカーにクレームをつける、はたまた、その部分だけを取り除いて他の部分は平気で食べる？

カップ焼きそばゴキブリ混入事故を覚えていますか？2014年に個人のツイッターで発覚し、社会問題にまで発展しました。実はこのような虫の混入事故は、遥か昔から起きている問題で、目新しいものではありません。但し、消費者の衛生感覚が鋭くなったことと、SNS等により簡単に問題をネット上にばらまけるようになったため、問題の質が大きく変化しました。

◆異物クレームと虫

2015年1月にゴキブリ混入問題を重く見た国民生活センターがその年度の食品異物混入相談をまとめて公表しました。これによると、2009年度以降年間で1600~1800件程度（2013年は冷凍食品への農薬混入事件の影響で6000件越え）の異物混入相談があったそうです。年度途中までの統計ですが、2014年度は2015年1月までに1852件の相談があり、このうち虫が最も多く345件（約19%）を占めていました。ちなみに2番目は金属片です（253件：約14%）。最も多く虫の混入があった食品は穀類で異物の約34%、次いで野菜類が約26%、となっています。

東京都でも保健所に持ち込まれた苦情を統計処理して公表しています。少し古いものですが、平成24年度の異物混入苦情集計結果を見ると、年間681件の内、虫が最も多く194件（28.5%）でした。

以上のように、異物クレームで最も多いのが虫であることがお判りになったと思います。

《カップ焼きそば ゴキブリ混入画像》



出展：<https://iwiz-chie.c.yimg.jp/>

◆混入した虫に害はあるのか？

先月号で、イエバエやショウジョウバエがO-157を、ノミバエやチョウバエと言うコバエがサルモネラや大腸菌を身体に付けて持ち運ぶ、という情報をお流ししました。したがって、これらのハエが生鮮食品に付着していた場合、この食品が食中毒事故の原因になりかねないという事になります。では、これも前述のカップ焼きそばのゴキブリは食べても大丈夫なのでしょうか。結論だけを言うと、まったく大丈夫です。ゴキブリの皮膚はキッチンで出ていますので、もしかしたらダイエット効果や美肌効果があるのかもしれませんが…。

フランス豆知識

~フランスで食べられている日本の食品~

●柿

フランスにも柿があり、ずばり「kaki」と呼ばれます。スペイン産のようです。日本とは食べ方が違い、柔らかく熟れた柿をスプーンですくって食べるのが一般的だそうです。



●すり身！？

フランスのスーパーで売られている謎の「surimi」。実はカニ風味かまぼこ（カニかま）です。サラダにしたり、寿司ネタにもされるようで、フランスのカニかま消費量は日本と同じくらいだそうです。



今月の迷曲 vol.7

(youtubeで見られます)
瞳を閉じて / 平井堅



(by 桜餅の葉っぱ)